

電気

災害発生時の電気と水の供給についてご説明します!

水

—屋上—



発電機

こちらは屋上にある自家発電機です。自動的に停電を検知し、電力供給を開始します。発電機は、りんくう棟(左)と救命棟(右)、それぞれに設置されています。この発電機の燃料タンクは、1階の屋外にあります。



STEP 4 高架水槽

こちらは屋上に設置されている高架水槽です。水を高い位置に貯蔵し、重力を利用して安定した水圧を供給するためのタンクです。高架水槽は水を「供給する」役割があります。



—1階—



燃料給油口

こちらは病院の1階外周道路にあります自家発電機の燃料の給油口です。りんくう棟自家発電機用(左)、救命棟自家発電機用(右)それぞれに設置されています。燃料タンク(下図)はそれぞれ地下にあります。1階の外周道路から給油できるようになっています。そもそも自家発電機は燃料なしでは稼働できません。停電が長引く場合、速やかに燃料の補給を行う必要があります。燃料をすぐさま協定先より手配し、速やかに補給を行うことで停電時でも自家発電機が稼働し電気を供給できる仕組みになっています。



—地下2階—



STEP 2 受水槽 (1階)



STEP 3 受水槽 (地下2階)

こちらは地下2階にある、受水槽です。水を一時的に貯蔵するためのタンクです。受水槽は水を貯める「受ける」役割があります。断水時、水道管から水が供給されなくなった際は、1階の外周から給水車のホースを伸ばし直接受水槽に水を入れます。受水槽に溜まった水をポンプで病院屋上にある高架水槽まで送り、断水時でも水圧を保ったまま各フロアで水が利用できる仕組みになっています。



STEP 5 各フロアへ



STEP 1 給水車から

災害拠点病院としての「備え」

当院は災害拠点病院です。災害拠点病院は、南海トラフ地震のような災害発生時でも、被災によって機能不全に陥らないよう体制や設備が整えられています。また、他地域で災害が発生した際には、DMAT(災害医療チーム)派遣を行う役割もあります。今回は、そのような、災害拠点病院としての「備え」を、新人DMAT隊員が紹介します。

災害対策本部物品



対策本部倉庫の中には、役割がわかるようなピスや地域の地図、拡声器、文房具、パソコンやプリンター、タブレット端末、無線、衛星電話などが、すぐに取り出せるように常備されています。



当院には、電話不通時でも連絡が取れるように、衛星電話4台(DMAT出動用を含む。DMATカーに備え付けのものを入れると5台)保有しており、防災無線含めて、消防や保健所、周辺医療機関などと密に連携が取れる体制となっています。



新人DMAT隊員

DMAT関連資器材

DMATカーには衛星電話が装備されていて、電波のないところでも電話が可能となっています。



DMATは、診療のための道具だけでなく、パソコンや無線、筆記用具など色々な資機材を持っています。



ロジバッグ (事務必需品)



薬剤バッグ



診療バッグ

